

トマト・ミニトマト栽培～厳しい夏を乗り切るには？～

農林水産研究所

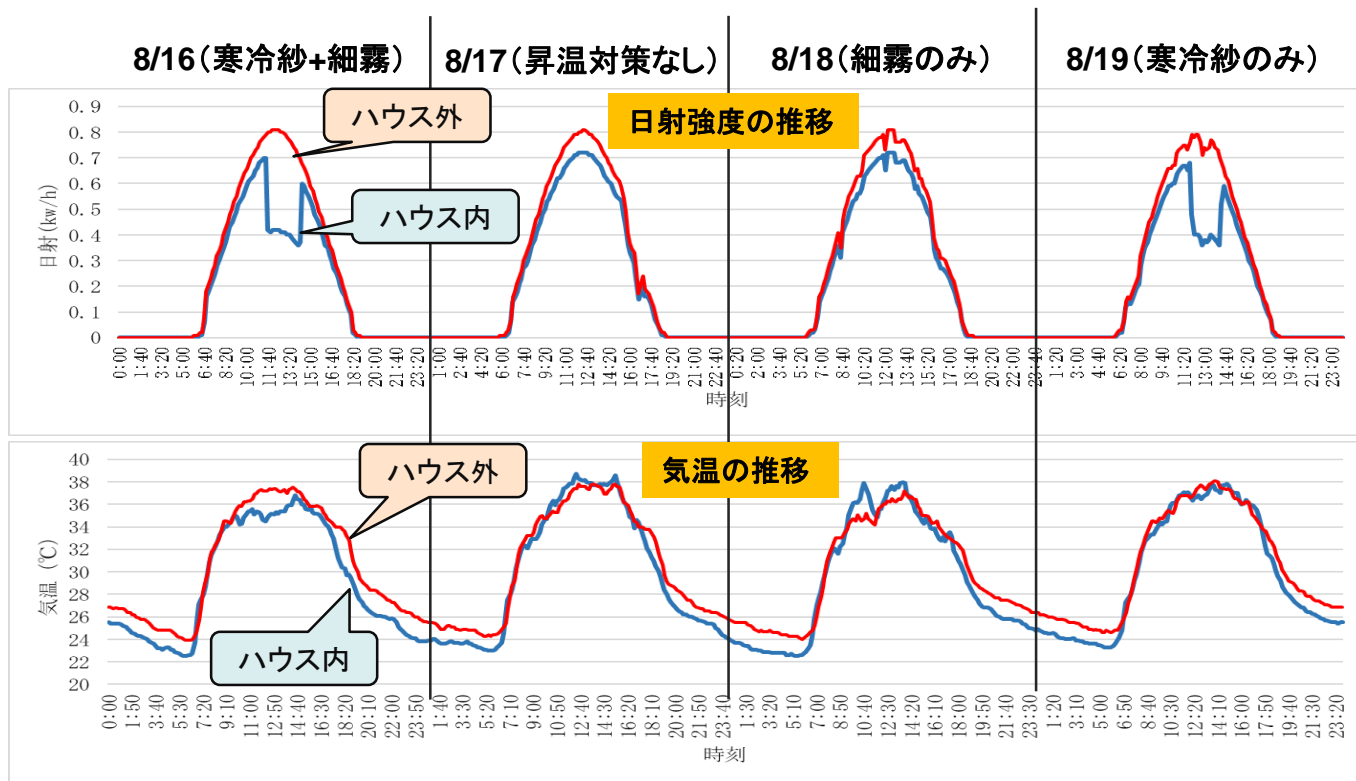
大玉トマトとミニトマトを施設で周年栽培すると、夏期の高温時期において、着果不良や草勢低下により収量が低下します。そこで、寒冷紗被覆と細霧冷房によるハウス内の昇温抑制効果について検討しました。

試験期間：令和2年8月16日～8月19日（4日間すべて晴天）

試験圃場：200m²複合環境制御ハウス、大玉トマト・ミニトマト栽培中（令和2年5月3日定植）

制御方法

- ・ 天窗・側窓：25℃以上で開放
- ・ 寒冷紗（50%遮光）：日射強度0.7 kW/m²以上で遮光
- ・ 細霧冷房：ハウス内気温30℃以上で、10分間中2分の噴霧



結果

- ・ 真夏の晴天時に日射強度0.7 kW/m²以上で、寒冷紗稼働すると、概ね10:00～15:00の被覆となりました。
- ・ ハウス内気温の昇温抑制効果は、寒冷紗被覆と細霧冷房の併用時に大きく、外気温から-2℃程度でした。